

SY5-4

Dx 時代にマッチした乳幼児健診を目指して

小枝 達也

国立成育医療研究センターこころの診療部

乳幼児健診の受診の有無や受診結果がデジタル化されて、利活用できる時代を迎えようとしている。子ども家庭庁の業務の中にも位置付けられており、近い将来、Personal Health Recordの一環として、乳幼児健診の結果が生涯にわたる健康増進のために生かされる時代が来ることが期待される。

そのためにはコアとなる健診項目を統一することや問診票も統一した内容に揃えることが必須となる。各地域独自の問診項目や健診項目は、オプションとして残しながらも、コアな内容については、診察方法や所見とする基準が統一されることが望まれる。こうした全国統一規格の登場が、健康格差の解消につながると思われる。

診察については、乳幼児健診でスクリーニングべき疾患の診察項目（3 - 4 か月健診 33 疾患、1 歳 6 か月健診 26 疾患、3 歳健診 33 疾患）に対応した「改訂版乳幼児健康診査 身体診察マニュアル」を全国市区町村の所管課に配布してある。

問診票については、親子の関係性や家庭生活、事故防止の項目を強化した問診票とそれに対するアドバイスを記した「健やか子育てガイド」を作成し、根拠のあるものとするべく研究を進めているところであり、今年度中には全国市区町村の所管課に配布する予定である。来るべきDx時代にマッチした乳幼児健診の内容の充実を目指している。